

恩真寺湿地の概要

位置 東経137.25度、北緯35.12度

標高 200~250m

面積 0.3ha(集水域を含めると11.92ha)

形態 貧栄養性の湧水湿地

その他 ○愛知高原国定公園第2種特別地域に指定
○ラムサール条約登録日/平成24年7月3日
(東海丘陵湧水湿地群として)

※[ラムサール条約]

特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約

恩真寺湿地は、恩真寺境内の北東に位置する草本群落です。春にはシデコブシやヘビノボラス、夏にはミミカキグサやサギソウ、秋にはミカワシオガマなど、四季を通じて多様な植生を見ることができます。

すずきしょうさん

恩真寺と鈴木正三

石平山恩真寺は鈴木正三和尚(1579年~1655年)が建立しました。鈴木正三は、江戸時代初期に活躍した三河武士出身の禅僧で、足助町則定に生まれ、一貫して民衆とともに歩み“勤勉の精神”などを説いた思想家です。



恩真寺



鈴木正三 坐像

恩真寺湿地の保全と利活用

一般的に湧水湿地は、土壌の堆積や植物の侵入によって次第に森林へと変化し、数十年程度で消滅すると言われています。恩真寺湿地では、湿地と東海丘陵要素植物を保護するため、地元自治区等による管理と定期的な保全作業が行われています。

また、湿地を通じた環境学習の場として地元小学校等が活用しています。



ラムサール条約湿地

やなみしち おんしんじしち かみたかしち
〈矢並湿地 / 恩真寺湿地 / 上高湿地〉



恩真寺湿地 (おんしんじしち)



発行

豊田市環境部環境政策課
〒471-8501 豊田市西町3丁目60番地
TEL 0565-34-6650(直)
FAX 0565-34-6759

関連施設

豊田市自然観察の森
〒471-0014 豊田市東山町4丁目1206番地1
TEL 0565-88-1310 FAX 0565-88-1311
●ホームページ
<https://toyotanoshizen.jp/>

※再生紙を使用しています。



豊田市

ラムサール条約湿地

恩真寺湿地



Onshinji Mire

とうかいきゅうりょうようようそしょくぶつ ゆうすいしっち
東海丘陵要素植物と湧水湿地

「東海丘陵要素植物」とは、東海地方(愛知、岐阜、三重、静岡)の丘陵地帯に生育する、栄養の少ない痩せた土地に適応した植物のことです。

これらの植物は、土壤に栄養の少ない「湧水湿地」*で多く見られます。

恩真寺湿地にはミカワシオガマ、シデコブシ、ヘビノボラスなどが生育しています。

きゅうりょうちたい

※湧水湿地

斜面が崩壊した場所などに湧き水が集まってできた湿地のことで、栄養を含む泥炭がほとんど無いため、貧栄養となりやすい。

主な植物の**開花時期**

植物名	3月	4月	5月	6月
シデコブシ	■	■		
ハルリンドウ		■	■	
ヘビノボラス			■	■

植物名	7月	8月	9月	10月	11月
ミミカキグサ	■	■	■		
ホザキノミカキグサ	■	■	■	■	
ムラサキミカキグサ	■	■	■		
アギナシ	■	■			
サギソウ		■			
ミスギク			■	■	
キセルアザミ			■	■	
サワヒヨドリ			■	■	
ミカワシオガマ				■	■
ウメバチソウ					■

開花時期は2014年～2015年の調査による。



ヒメタイコウチ

恩真寺
湿地



湿地の
植物

春



シデコブシ



ハルリンドウ



ヘビノボラス

夏



アギナシ



ミカキグサ



ホザキノミカキグサ



ムラサキミカキグサ



サギソウ

秋



ミカワシオガマ



ミスギク



ウメバチソウ